

平成30年度 弥富市総合教育会議 会議録

1. 日 時 平成31年3月7日(木) 午後3時00分

2. 出席者 市長 安藤 正 明 総務部長 渡 邊 秀 樹
教育委員会
教育長 奥 山 巧 教育長職務代理者 伊 藤 昭 三
委員 浅 野 美喜子 委 員 鈴 木 由 美
委 員 阿 部 康 治

3. 議 題 (1) 弥富市教育大綱(案)について
(2) 各種調査報告について
(3) 今後の小中学校のあり方について

4. その他

事務局 定刻より少し早いですが、皆様、お集まりですので、ただいまから平成30年度弥富市総合教育会議を始めさせていただきます。

初めに安藤市長より挨拶を申し上げます。

市長 皆様、こんにちは。

公私とも大変御多用のところ、また大変風が強い中、平成30年度の総合教育会議に御出席くださりまして、ありがとうございます。

さて、弥富市はこの4月からスタートします第2次弥富市総合計画の中で、「心豊かで文化を育む人づくりのまち」を本市が目指す教育の理念として掲げました。それを見て引き続き学校教育の充実、生涯学習社会の形成、スポーツ、文化、芸術の振興などに努めていく所存です。人は学びながら年をとるといふような言葉がございます。一人一人の市民の皆様が楽しく生き生きと学び続け、自己実現を図ることのできる社会の実現に向け、弥富市としても今後も考えていかなければなりません。教育面での大きなテーマの一つとしては、学校の再配置計画、適正規模化が上げられます。少子化が急速な勢いで進んでいる現状を鑑みながら、また各学校の歴史や伝統を尊重しつつ、慎重かつ確実な審査を進めていかなければなりません。弥富市の将来を担う子供たちがどのような環境で学ぶのが望ましいのか、財政の健全化も念頭に考えていくことが重要です。

本日の議題になっておりますが、一緒になって皆様と御協議いただければと思います。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

事務局 ありがとうございます。

それでは、これからの議事進行につきましては、本会議の招集者であります安藤市長にお願いいたします。

市長 それでは早速、議事に移りたいと思います。

まず議題1としまして、弥富市教育大綱（案）について事務局から説明をお願いします。

事務局 音響のほうがちよっとよくないかもしれませんが、よろしくお願ひいたします。

初めに、本大綱は地方教育行政組織及び運営に関する法律第1条3に基づき、市長が総合教育会議において協議するとあり、今会議の議題としております。

先ほど申し上げました資料のほうについては、資料1、資料1-2とございます。資料1-2のほうがこれまでの大綱をもとに見え消しの形で書いたものになっておりますので、参考に見ていただきたいと思ひます。

それでは教育大綱ですね。1番を見ていただきまして、弥富市の教育・文化に関する基本方針について説明させていただきます。

本大綱は、目指す姿を知・徳・体として、知ですが、自ら学ぶ意欲を高め、確かな学力を養う。徳、自他を大切にし、ともに心豊かな生活を築く態度を培う。体、命を尊び、心身を鍛え、たくましく生きる力を養うとしています。そして、心豊かで文化を育む人づくりのまちの実現に向け、この知・徳・体のバランスのとれた生きる力の育成を市が目指す教育の理念として掲げました。

基本理念の中で学校教育においては、主体的・対話的で深い学びを実現することで、確かな学力と道徳的心情の育成、社会に参画する能力の育成を図ります。また、安全・安心で社会の情報化・グローバル化に対応できる学習環境整備に努め、地域に信頼される開かれた学校を実現していきますとしています。

改正前に比べ、学習指導要領を踏まえながら多くの言葉で表現を今回させていただいております。

生涯学習では、スポーツの振興と文化・芸術の振興を図り、市民の体力向上や健康づくり、伝統文化の継承と充実に努め、あすの本市を担う人材の育成と特色のある文化のまちづくりをリードする取り組みを重点的に推進します。

本大綱の期間は、平成31年度から5年間としています。

基本理念の実現に向け、次の5つの目標を定めております。

図のほうを見ていただきたいと思ひます。

1つ目に学校教育の充実、2つ目に生涯学習社会の充実、3つ目、スポーツの振興、そして文化・芸術の振興、最後に青少年の健全育成でございます。

では、順にこの目標について説明させていただきます。

初めに学校教育の充実について。

目指す児童・生徒像を「一人一人が輝き、よく学び心豊かでたくましい弥富の子」とし、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力など「生きる力」を育む特色のある教育の一層の充実、家庭・地域・学校が一体となって、子供の安全が一層保たれた環境、信頼と魅力のある地域に開かれた学校づくりを目指します。

資料1-2にあります黄色塗りの箇所は、第2次総合計画から引用しております。引用の言葉と新たに本大綱用に加筆された箇所があるのを見ていただけるかと思ひます。

では、2つ目に生涯学習社会の充実についてですが、誰もが生涯にわたって主体的に

学び続け、その成果がまちづくりに生かされる生涯学習社会の形成に向け、総合的な指針づくりのもと、学習環境の整備を進めます。

3つ目にスポーツの振興です。

スポーツは、心身両面の健全な発達に必要不可欠なものであり、誰もが気軽にスポーツや運動を楽しく接することができる環境や、各種スポーツ団体との連携により市民が主体的かつ継続的に参加できる仕組みや環境を整えていきます。

4番目に文化・芸術の振興でございます。

市の歴史文化を発信する拠点として、歴史民俗資料館が有効に利用され、歴史文化に対する関心と地域への理解を深めていきます。

5番目に青少年の健全育成についてです。

未来を担う子供たちが健やかに育成されるよう、全市的な体制の充実のもと、健全育成活動を積極的に推進します。また、文化財保存会伝承活動による地域の担い手の育成を推進し、地域との協働で行う教室・講座の開催を図るとともに、放課後の子供の見守りと居場所づくりを進めてまいりますとしております。

これまでごらんいただきましたとおり本大綱について、第2次総合計画や指導要領などを考慮して作成をいたしました。

説明については簡単ですが、以上でございます。

教 育 長 ヒトリヒトリの漢字は「一人一人」でよろしいでしょうか。

事 務 局 市の学校教育の記述ではそのようです。

教 育 長 次長さん、どうですかね。ヒトリヒトリは漢字でいくか、もうヒトリのヒトリは平仮名でいくとか。今の表記の仕方はどちらですか。

教育部次長 漢字でそのままです。

教 育 長 漢字そのまま。

教育部次長 例えば、一人一人の言葉の願いとかを平仮名にしたほうがより鮮明になるようでしたら平仮名に変えてもよろしいかと思えます。ただ、この表記で間違っていないと思えます。

教 育 長 これは揺らぎがありまして、前は一人ひとりでしたけれども、今は一人一人になったわけじゃないかなあ。たしかそうですね。文科省の表記の仕方が変わりました。もしあれでしたら確認して、間違いがあれば直させていただきます。

4番の文化・芸術の振興で、市の歴史文化を、この歴史文化は歴史と文化と4文字になっていますけれども、歴史と文化を分けたほうがという市長さんの御意見でございます。

市 長 ちょっとわかりませんが、私は聞いておるんですけど。

教 育 長 「歴史・文化」のほうがよろしいでしょうかね。

教育部長 済みません。ちょっと分けたほうで訂正させていただきます。

教 育 長 分けたほうで訂正ということでしょうか。

市 長 今事務局から説明がありましたが、内容等につきまして御意見、御質問等がありましたらお願いをいたします。

委員 教育大綱という言葉、それから基本目標というような言葉、基本理念というような言葉、どうしてもこうなっちゃうんですけれども、最初のところで弥富市の教育文化という言葉になっていて、この弥富市らしさというのをどう表現するか。要するにこれをどこのまちでも通用するというか、文科省や学習指導要領の中にある言葉が並んでいますので、だけど私がちょっと感じたのは、じゃあ弥富市のというところをどうやってここに織り込むかと、このところで、もしいいお知恵があれば、弥富市らしさ、弥富市がやっておるぞというところを色がつくといいなあという感想を持ちました。

この大変なところがないので何とも言えませんが、皆さんどのようにお感じでしょうか。

市長 事務局、何かありましたら。

事務局 今、私もすぐそのアイデアがないので大変恐縮なんですけれども、でも今、委員に言われたことはまさしくそのとおりです。最後に私が申し上げたとおりですけれども、今回ももちろん大綱については委員に百も承知で言われたことですけれども、指導要領であるとか、総合計画からの言葉のとおり、いわゆるそのとおりだと。沿う形、準ずる形で、もちろん上位の計画が総合計画でありますのでそれに沿う。また、文科省が出した指導要領はもとにあるんですが、それに沿った形で。なので、大変かたい言葉で今指摘を受けて、ごもっともだと思っんですけど、今それに対するちょっと答えがないので、逆に何かありますか。

教育部長 今、課長のほうからは説明はさせていただいたんですけど、現段階で弥富らしさをいきなりちょっとすぐに反映というのはなかなかちょっと難しいですので、これはちょっと長いスパンになってしまって申しわけないんですが、とりあえずこれ今5年間の大綱という形になっていますので、次回ということだと先になってしましますが、長いスパンでちょっともう少し弥富らしさが出せるように次の改正の段階でさせていただきたいなあと思いますので、よろしく願いいたします。

委員 そのとおりだと思うんですね。なかなか出すのは難しいんですが、ただ5年間を目途にということであるということになると、今度評価するときもまた弥富市らしさをどうやって評価するのかということになってくるんで、ぜひいろいろ検討して、弥富市の置かれた状況だとか、弥富市が目指している重点的なところをちょびっとでも入れ込んでいただけると、そういったものを学校の教職員なり地域の方々が頭に置きながらこの5年間頑張っていこうというふうになっていく、そのことができればいいなあということで、無理なことを申し上げました。またよろしく願いします。

教育部長 済みません。全体のこの大綱自体の改正は5年ですけど、一部そういう早いタイミングで何かいい部分の追加とかという形であれば、またその中の一部を改訂みたいな形で入れ込めるような形もちょっと検討させていただきますので、よろしく願いいたします。

市長 弥富市らしさということでは、やっぱり平和教育ですよ。もしそれをさらに入れば、後からでもいいですよ、今じゃなくても、これからそういった方針でいくのも

弥富市らしさかなあと思います。

委員 私も市長さんと同感でして、あるいは昨年度、健康都市宣言みたいなのがあれば、そういったものを少し入れ込むことによって弥富市の独自性みたいなものが出るんじゃないかなあということは思います。

市長 ほかに御意見。

阿部さん、お願いします。

委員 青少年の健全育成の2行目に、また文化財保存会伝承活動による地域の担い手の育成を推進し、地域との協働で行う教室・講座の開催を図るとともに、放課後の子供の見守りと居場所づくりを進めますというのがあるんですが、ということは、この文化財の保存会伝承活動によって青少年の健全育成を図るということになってしまいますよね。なので、ここに載っている文化財保存会伝承活動というものは4番に入るんじゃないでしょうか。別にそれとは関係なく、地域との協働で行う教室・講座の開催に当たって、放課後の子供の見守りと居場所づくりを進めたり、平和学習を推進していくことで青少年の健全育成が図れるのではないかなあと思います。以上です。

教育部長 こちらのほうの文章を考えたときに、そういう文化財の伝承活動を通じて少しでもそういう若い児童・生徒から順番に継承していただくような形で、青少年健全育成に役立てていくということで、ちょっと考えて入れさせていただいて、総合計画のほうも含めてこういう形にちょっとさせていただいたという経過があるんですが、確かに委員が言われるように、文化財の保存会伝承活動というと芸術文化のみというずばりの言葉になってしまうんですが、こちらの思いとしては、そういうものも利用して青少年の健全育成を進めていきたいということで入れさせていただいた部分ではあったんですが。

委員 これね、書いてある。文化財保存会伝承活動によるというふうになっているので、これが強くなっているんですけれども、例えば「など」と、など地域との協働でという形にすれば、こういったものをやりながらという形で地域との協働のほうが強くなりますので、による地域の担い手の育成を推進しという部分のところをちょっと切っていくとつながっていくような気がしますよね。

これは弥富市の特色のある活動ということで、一つ例として出していくというのはむしろいいと思うんですが、担い手の育成を推進しというところをなしにしたほうが文脈がつながるんじゃないかなあということを思いますね。

教育部長 今、御指摘いただいた部分の形で少し訂正をさせていただくという形でよろしいですか。委員。

委員 はい。

教育部長 済みません。ありがとうございます。

市長 ほかに御意見ありますでしょうか。

よろしいですか。

(挙手する者なし)

市長 それでは、今御意見いただいた部分を修正した後、案というのを取っていくという

ことよろしいですか。

(「いいです」の声あり)

市長 お願いをいたします。

それでは次に、議題の2として各種調査報告について、まず初めに①全国学力・学習状況調査について、教育委員会より説明をお願いいたします。

吉川 それでは、まず平成30年度全国学力・学習状況調査の結果報告になります。

これは毎年4月に行われているものです。今年度の結果について、一番最後の紙に表がありますので、まずそちらをごらんください。

この表を平成27年度から4カ年分載せてあります。

そのわけは、理科が毎年ありませんので、前回に理科が行われたのは平成27年度でしたので4カ年分載せてあります。

上から全国の数値、そして愛知県の数値、そして弥富市の学校の数値というふうになっています。

愛知県の数値の右横に丸数字が書かれていますが、これは新聞等で発表されている愛知県の全国の順位となります。

また、弥富市の数値のところはちょっと見にくいですが色づけがされています。これは全国平均を上回った、もしくは同等であったというところに色づけがされています。

平成29年度より小数点以下は公表しないという方向になりましたので、そのわけは、市町村または学校の序列化を防ぐということです。あくまで指導方法の工夫改善のために活用するものとするとしていますので、この数値の順番で一喜一憂しないということが大前提になると思います。

学校によっては極めて良好な結果のところもありますけれども、年度によって結果が異なりますので、一概にどこの学校がいいとか悪いとか、そんなことは言えないかとは思いますが、ここ4年間ちょっと低迷をしている学校もございます。

裏面が中学校の結果になります。後ほどお話ししますが、中学校のほうはおおむね非常に良好な結果が出ております。

それでは1枚目をごらんください。

まず小学校の国語になりますが、国語Aは全校平均と等しく、県平均より高い。国語Bが全国平均より下で、県平均より高いという結果になりました。

よかったのは、書く能力についてはまずまずであった。そして、言語についての知識・理解・技能については非常によかったという結果が出ています。

いわゆる知識・技能についてはよく定着をしておるなあということなんですが、課題として見えてきたのが読む能力になります。この問題の設問としては、目的に応じて必要な情報を読むことで捉えること、それから物語文なので登場人物の心情を的確に捉えていくこと、このあたりがちょっと弱い傾向がありました。

ですので、星印ですけれども、本を中心とした資料、新聞、雑誌、インターネットなど、情報収集の範囲や活用方法を広げる学習の場を積極的に設定する必要があるという

ふうに考えています。

問題の中に、複数の文章を読みながらその関連性を答えていったりする問題も出ていますので、より多くの文字に触れていくことが肝要かと思います。

小学校の算数ですが、全国平均より低く、県平均と等しい、大体そんな感じとなりました。算数Bのほうは、全国平均とほぼ等しく県平均よりは高いということになります。

よかったのは、数と計算、量と測定という分野については、全国・県平均並みでした。

問題についてはその下に示してありますが、課題として数量関係や図形についての知識・理解が極めて低いということが出ました。つまり、知識であれば、公式等の理屈を自分で他者に説明できるほど理解ができていないということです。

授業においては、いわゆる教師が教える、友達同士で教え合う、インプットはあるんですけどもアウトプットの場が乏しいということが考えられると思います。ですので、得た知識をいかにして自分のものに定着し、他に説明できるかというところまで授業の中で取り扱っていく必要があるかと思います。

裏面に行きます。

今話したようにですけれども、筋道を立てて考える、事柄が成り立つことを説明できるようにする、そういう学習の場を授業の中で取り入れていくことが必要であると考えます。

小学校の理科ですが、全国平均・県平均よりも低いという結果になりました。

三角の2つ目ですけれども、科学的な思考・表現が全般的に低いという結果です。これは、複数の情報や実験結果を多面的に分析し、それを根拠として妥当な考えをつくり出すような論理的思考力を育む必要があるという課題を得ました。

ふだんの実験も与えられた実験をこなし、予想された結果を得て終わっていくということではなくて、何のためにこの実験をするのかという見通しを持つこと、そして自分たちで実験の構想を練っていくこと、そんなことが授業においても大切になってくると思います。

ここで論理的思考力という言葉が出ましたけれども、平成32年度からは、小学校ではプログラミング教育が導入されます。ここにもプログラミング教育において育む力というのはまさに論理的思考力であります。こういったことが充実されてくれば、ここら辺の力も変わってくるかなということを思います。

中学校ですけれども、おおむねいい結果でした。

国語ですが、全国平均・県平均よりも高く最上位層が少ないのですが、中央値以上の生徒が非常に多い結果となりました。ですので、関心・意欲・態度、話す・聞く、書く、知識・理解・技能等がバランスよく身につけていることがわかりました。

ただ、小学校と合わせてですけれども、同じく読む能力について課題が見られました。

特に中学校では、複数の説明的な文章を比較しながら読み、それぞれの文章の構成や展開、表現の特徴を分析的に捉え、その工夫や効果について自分の考えを持つ。ちょっと難しそうですけれども、こういったことも授業で取り入れるように学校のほうには伝えてあります。

中学校の数学ですけれども、これも全国平均よりも高く、県平均と等しいということです。そして数学B、応用のほうですけれども、これも全国・県平均よりも高いという結果でした。

数学においても、4観点ともバランスよく学力を身につけており、記述式の設問もあるんですけれども、無回答である生徒が圧倒的に少ない状況でした。ですので、最後まで粘り強く取り組もうとしたことがわかります。

中学校の理科ですが、これも全国・県平均よりも高く、上位層が非常に多い状況でした。

理科においても、4観点バランスよく学力を身につけており、理科の4領域、これもバランスがいいものでした。数学と同じく記述式の設問においても粘り強く解いて、無回答率が非常に少ない傾向がありました。

ただ、実験を手順どおりに行って、予定された結果を得るという進め方が授業でなされている傾向があります。ですので、実験はまず仮説を検証するものだという考えに立って疑問を持ち、何が原因、要因なのかを予測し、条件を上げ、条件を潰していくために条件整理をするための実験を行うと。その結果から考察をし、定理を導いて、さらに最後に説明することまでできるという、そういった授業の流れが必要であるということがわかっています。

全国学力・学習状況調査は、質問紙もあります。児童に対する質問と学校の担当者に対する質問がありますが、それが裏面に示してあります。

大きく全国や県の数値と隔たりのある項目について探ることで、課題を見出していました。

まず児童質問紙ですけれども、小学校のほうは、非常にこれは毎年ですけれども、自己肯定感が高い、教師も認めてくれる、将来の夢や目標を持っているという児童が弥富市には非常に多いです。そして、いじめについてはどんな理由があってもいけないことだと考えています。

ただ、課題として、地域の人とかかわったりする機会が少ない。あとボランティア活動に参加したり、地域社会をよくするために何をすべきか考えるという児童が全国・県に比べてやや少ない傾向がありました。実際のところはどうかわかりませんが、子供たちは少なくともそのように回答した子が多かったということでもあります。

中学校においても同様で、非常に自己肯定感の高い子が多いんですけれども、純朴な生徒が多いです。

ただし、ここにおいても、地域の人とかかわったりする機会がやや少ないということが出ています。ですので、学校側の教育活動においてもいかに地域の方を活用するか、地域の素材を活用するか、そういったことも授業の中で取り入れていくとよいということがわかってきました。

弥富市の学校質問紙においては、やはり先生方の人的・物的資源、地域の資源を活用していこうということを言いながらまだできていないということ、そしてまだまだICTを活用した授業を行う頻度が低いということ、そういったことが課題として見えてき

ております。

ただ、今年度、特にICTの活用については、随分、挑戦的に取り組みを進めていますので、これから随分変わってくるのではないかと思います。

その次の紙に行きます。

弥富市の中学校の様子についても先ほどと同じになります。ただ、非常に落ち着いて授業が進んでいるのが弥富市の特徴であります。

キーワードとして今後の課題を上げました。

まずは読む力の育成。

そして2つ目として、論理的思考力の育成です。これは先ほどもお話ししましたが、プログラミング教育、これを進めていくことになりますので、こういったところからも変わってくると思います。

そして3つ目として、地域の人的・物的資源の有効活用。

そして、個に合わせた指導の提供。

最後に弥富市は非常に充実していますので、ICT機器の活用の促進です。今年度、タブレットの効果的活用を主題とした研究も進めている学校も幾つかあります。ある学校でそういう研究会を催したところ、市内の小・中学校からたくさんの先生が参加しております。若手を中心に日ごろから活用が進んできておりますので、これから随分変わってくるかなあというふうに思います。

最後に、新学習指導要領の改訂で、その方向性で示されている資質能力ですね。新しい時代に必要となる資質能力として、生きて働く知識利用、そして未知の状況にも対応する思考力、判断力、表現力、こういったことが上げられています。ですので、全国学力・学習状況調査の問題は、やはりこの新しい学力観に沿ってつくられていますので、そして一問一答の短答式ではなくて、思考力、判断力、表現力を問うものが非常に多いものですから、子供たちにとってはふだんなれない設問に戸惑うことも非常に多くあります。

単に知識、技能だけではなくて、これからはそれが生きて働く、そしていかに考えるか、協働して考えるかということが鍵になってくると思いますので、新学習指導要領の実施に向けて先生方も非常に勉強しておりますので、これからまた結果が変わってくると思います。

以上で報告を終わります。

市長 ありがとうございます。

ただいま学力・学習状況調査について説明をいただきましたが、御意見、御質問等がある方は挙手してお願いします。

御意見どうでしょうか。

よろしいですか、これは。

教育長。

教育長 読む力がちょっと弱いということですがけれども、私が聞いておる中では、各学校、朝読書して読む習慣をつけておるといふふうに聞いておりますけれども、そこら辺との

関連性はどうか考えたらいいでしょうか。

吉 川 ありがとうございます。

読む時間、機会は学校で十分にとっておると思います。ただ、これはどうしても問題になってくると、読み取る力とか、文章表現の中から必要なことを捉えていく力というものになっていきますので、授業の中で意図して、ここの星印に書いたようなこと、思考力が必要だろうと思いますので、また学校のほうに適宜、指導方法については伝えていきますし、愛知県のほうからも、授業改善プログラム等、資料がたくさん出ていますので、こういったものを活用するように指導してまいります。

市 長 ほかに御意見ございますでしょうか。

では、よろしいですかね。

(挙手する者なし)

市 長 それでは次に移ります。

②としまして、全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果概要についてを教育委員会より説明願います。

吉 川 続いてお願いします。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査につきましては、小学校5年生と中学校2年生で実施しています。年によって傾向がありますので、なかなか純粋に比較することは難しいんですけども、まず、別とじの集計結果のグラフをごらんになりながらお聞きいただけたらと思います。

まず、体格の集計ですけれども、小学校5年生の体格ですが、身長、体重ともにやや低く、中等度の肥満の割合がやや高い結果でした。

5年生の女子はやはりちょっと低目で、軽度肥満の割合がやや高い。

そして、中学校2年生の男子ですけれども、身長、体重ともに低いのですが、肥満の割合は低いということです。

そして、2年生女子ですけれども、肥満の割合は低いです。ただ、やせの割合がやや高いという傾向でありました。

じゃあ、どこまでが問題かというところではありますが、今年度についてはこういう傾向でしたということです。昨年度とはまた傾向が違っていますので、ちょっと年によって違うのかなあということは感じております。

2番の実技集計ですけれども、グラフのほうの資料は1枚目が体格集計になります。2枚目が小学校5年の男子の実技、3枚目が小学校5年女子の実技、4枚目が中学校2年の体格集計、5枚目、6枚目が中学校2年生の男子、女子の実技になります。

なかなか今からしっかりと見る時間はありませんが、資料3にまとめましたので、こちらを中心に進めます。

全国的に実はこの調査は全国の結果も公表されておりますが、女子が5年連続で向上して最高を記録しています。

小学校の男子についても、過去2番目に高い数値、中学校の男子は過去最高値というふうで、男女ともに伸びてきておるんですが、弥富市の結果は残念ながら昨年より低い

値となりました。

中学校2年の女子は非常によかったんですけれども、それ以外が愛知県の平均よりも下回りました。先ほどの体格も影響しているのかちょっとわかりませんが、今年度についてはそんな状況でした。

下にその体力合計点というところで示してありますので、低いとはいってもわずかな数値ではありますが、このような結果になっております。

小学校の5年生の男子は総合評価Aが少なく、Aというのが一番いいことです。B、D、Eが最下位ですが、下位が多いということでした。

女子のほうは県平均よりも大きく下回りました。やっぱり上位が少なく下位が多いということです。

中学校2年の男子は、真ん中あたりが非常に多いという状況、そして女子については、県・全国平均を上回りました。上位層が非常に多くて下位層が少ないという結果でした。

各種目ごとの結果については、また先ほどの表をごらんいただけたらと思います。

児童質問紙がこれにもございますので、その中から特徴的なものを上げました。

小学校のほうですけれども、男女ともに運動やスポーツは好きです、大事だと考えています。でも、ちょっと自信が低下している傾向がありました。運動やスポーツが自分自身にとって大切なものであると答えた割合も低下しました。そして、平日に体育の授業以外で運動をする時間が県・全国平均よりも少ないという特徴も出ています。

または三角の2つ目ですけれども、これはテレビ、DVD、ゲーム、スマホ、パソコン等、こういったものを見て過ごす時間が、男子が2時間以上と答えた児童がちょっと多い。女子がちょっと問題で、5時間以上の長時間という割合が13.7%で、実はこの数値は中学生よりも割合が高く出ました。

小学校の5年生のほうからこういうものに触れる時間がぐんぐん長くなって低年齢化しているなあという感じがします。

また、地域のスポーツクラブに入る児童が若干少ないという結果でした。

1週間の総運動量、運動時間がやはり少ないという結果になりました。

中学校のほうでは、体力・運動能力に自信があると答えた生徒が少ないという結果でした。ただ、食生活等、生活習慣も安定しております。また、中学校においては、テレビ、スマホ、ゲーム等の視聴時間が昨年と比較をしてみましたら改善をしてきました。

また、ちょっと飛ばしてしまいましたが、上から2つ目の部活動が影響していると思うんですけれども、学校の保健体育の授業以外のスポーツをする時間、日曜日、月曜日の運動時間が少ない。これは地区で部活動におけるルールを設けているからだと思います。今は本当に適切な時間で子供たちは頑張っていると思います。

下から3つ目ですが、武道の授業で技を身につけたり、楽しさを味わったり、礼儀・作法を学んだということが非常に多く、大きく弥富市の特徴として出ました。これは3中学校において、弥富中では柔道、なぎなた、弥富北中では柔道、なぎなた、十四山中では柔道、なぎなたに加え、男女共修で合気道を行っています。

これはこちらの海部地区においても非常に特徴的であって、弥富市が誇る武道の教育

かなあというふうに思っております。そういったことが子供たちの成長や学びや満足にもつながっておるということがわかってきました。

今年度はこのような結果でしたけれども、また来年度は来年度で変わる可能性が大きくなりますので、ある意味比較はできませんけれども、また次年度は次年度でまた見ていきたいと思えます。以上です。

市長 ありがとうございます。

ただいまの体力、運動能力等々について説明いただきましたが、これにつきまして何か御質問があればお願いをいたします。

この件についてはよろしいでしょうか。

(挙手する者なし)

市長 それでは次、(3)として、今後の小・中学校のあり方について、これにつきましては、地域や親の思いなどいろいろな考えがあるかと思えます。また、在籍数についても地域により大きく違いがあります。そういった中、教育委員さんの私的な考えでも構いませんものですから、忌憚のない御意見を賜りたいと思えます。

まず、これは事務局から説明ありますか。

なしで。

資料がありますものですから、そちらのほうをごらんになっていただきまして、御意見を伺いたいと思えます。

どうでしょうか。本当に私的な御意見で構いませんが、忌憚のない御意見を。

浅野さん、何かありませんか。何でも、何でもいいです。こういう場ですので。

委員 大変難しい問題だと思うんですが、私は十四山地区のほうから教育委員として出ております。親御さんのほうから東部小学校、西部小学校の合併はあるんですかとかいう声は時々聞いております。ただ、小学校の場合はやっぱり子供たちが家から通える範囲の距離であって、小学校はなくしてほしくない。なくしたくないというか、そんな親の意見もあります。

あと中学校のほうは、今、東部と西部合わせても1クラスにしかないぐらいの人数なんです。これからもどんどん減っていく状況だと思うんですが、中学校のあり方については少し考えたほうがいいんじゃないかという意見もあります。

市長 ありがとうございます。

委員はどうでしょうか。

委員 私は白鳥なんですが、白鳥の人はこれを見ると、十四山さんに比べたら人数がいるので、でも白鳥も1号線を渡ってくる子がいるので、十四山のほうというか、ああいふ子たちをそちらの十四山のほうに、遠いので、見直すならそういう全部、学区自体で見直したほうがいいのではないかなあと思っています。

市長 ありがとうございます。

ある方から私に言われたのは、中学校のことですけど、できるかできないが多分難しいと思うんですが、学校選択制自体のことが、要は部活の問題ですね。これは十四山の方から言われたんですが、バスケット部がない、中学校で。ミニバスをやっている子が

いるんです。そうした場合に中学校へ上がってもバスケットをやる環境がないから、三重県の学校に行っているというような話を聞いて、学校選択制にしたらどうかなあというような御意見もいただきました。それは本当に難しい問題でございますもんですから、こんな意見もあるということをちょっと御承知いただきたいと思います。

ほかに何か御意見。

阿部さん、ありましたら。

委員 私は栄南学区という離れたところにあつて、人数も少なく、福寿会なんかで年寄りの話をすると、栄南小学校も本当に子供の数が減ったなあということをよく聞きます。でも、減らした張本人はあなたたちでしょうと僕は思うんですが。

では、小学校の運動会とかそういうのはというと、おじいさん、おばあさん、保護者も参加して結構楽しくやっていて、やっぱり楽しいなあ、そういう感想を持ってもらえるんですけどね。

少なれば目が行き届くというか、授業も楽しそうにやっているし、少ないのをメリットと考へて学校教育としてはうまく進められているなあと思います。中学校の再編成の会にも前に出たことがあるんですが、弥富市が合併してできたときにそういう案があつてうまくいかなかったのが、これからうまくやっいていこうと思つても、いろいろな地域の人の声が強くて難しいだらうなあ、今のままで仕方がないんじゃないかなあと思います。

市長 ありがとうございます。

委員、どうでしょうか。

委員 3人の意見と同じようなところで、小学校、特に低学年というところにターゲットを絞ると、やはり少人数でも十分いろいろな教育活動が成立しているという話を聞いております。したがつて、きめ細やかな、あるいは人と人とのかかわりという点でいつたら、むしろ少人数の学校のほうが大きなメリットがあるという、そういう捉え方でも考えられると思いますので、私は他の市町のいろいろな動向を見ついても、学校への地域の愛着というのが非常に強くて、建て前論でいつてもなかなか実際には動かないという現状がある中で、小学校が小さな学校もありますが、それぞれの地域との連携や何かをしながら、これからまずはしばらくは様子を見ながら、動向を注視しながらやっいていけばいいのではないかなあ、必ずしも大きいからいいとか、小さいからいいということとは言えないと思つております。

ただ、中学校の場合は、いろいろな意味で競争だとか、いろいろな人間関係の変化だとかという観点から見たときに、多少小規模であるところの学校の問題というのがいかなものかなあ。適正規模検討委員会というのが、四、五年前ですか、28年のときにも、やはり十四山中学校をどうしていくかという問題、これが焦点になつて検討されたような気がいたします。

一つは、廃止してほかのところへ行くという考え方もあるでしょうし、逆にもう少し校区を広げて子供をそちらのほうへ通わせるということによつて3校のバランスをとるというような考え方、どちらかといへば、全体的なその検討委員会での結論は、校舎、

つまり校区を多少変更してそちらのほうの人数をふやしていこうということであったわけではありますが、何年か経過していますが、なかなか実行に移すことが難しいという現状があるわけでもあります。

今見ていると、あと五、六年は何とか2クラスがもつんですが、それ以降に1クラスになってしまうというような見通しでありますので、そこら辺についてやる気をちょっと加速度を上げて検討していく必要があるのかなあということは思っております。以上です。

市長 ありがとうございます。

教育長さん、何か最後にまとめで。

教育長 教育委員会の事務局としては、4つの観点でちょっと小・中学校のあり方について考えなあかんというふうには思っているんです。

一つは、今、委員が言われた28年4月に答申された適正規模・適正配置の答申をこれも尊重しなければならないかなあと。先ほど言われたように、小学校は複数学級になるまでは小規模校であっても、一人一人にきめ細やかな指導を大事にしていっていいんじゃないかということで、中学校のほうは3つの中学校のバランスをとるということで、十四山中学校の校区を広げるという答申でしたけど、これも考えの中に一つ入れなければならないということ。

それからもう一つは、子供の願い、地域の願いと、これも非常に大きな要素ですので、考えていかなければならない。先ほど市長さんも言われた、部活動がやりたくても行っただころの中学校で部活動がないというのも子供の願いだと思います。

それから市の中期財政計画、いろんな学校を統合したり、それから配置したりするには、やっぱり財政の根本がなければいろんなことができないという、新しい学校をつくるというようなことも理想の話なんですけれども、財政にそれができるかどうかということも頭に入れなければならないということです。

それから4つ目が新学習指導要領、これは主体的・対話的な深い学びということで、要するに今の子供は、少子化でもってコミュニケーション能力が不足していると、対話的ということで、やっぱりできるだけ多くの人の対話と学び合いという言葉が主体とありますので、できればある程度のクラスの人数確保ということが新指導要領の狙いでもあるわけです。

この4つの要素を踏まえながら小・中学校のあり方について考えていかなければならないなあというふうには思っております。

先ほどの市長さんが言われた学区の選択制というのは、来年度、あま市のほうでもちょっとやられるということで、北名古屋市が選択制をとって結局、選択制をとりながら教育委員会の思いどおりの区割りができたというようなことも報告を受けておりますので、選択制ということも一つの中学校のあり方については考えていってもいいんじゃないかなあというふうには思っております。

いずれにしても難しい問題ですので、できれば若い保護者の今の小学校1年生、2年生、それから保育所に通わせてみえる保護者のお母さん方の御意見なんかも聞いて、一

番大事なことは子供の教育環境が一番大事ですので、子供の教育環境にとってどのようなことが大事なんかなあというサイレントマジョリティーといいますか、余り表に出てこない声を大事にしながら意見を聞いていきたいなあというふうには私は思っています。以上でございます。

市長 ありがとうございます。

いろいろな御意見をいただいたわけでございます。

いずれにしても弥富市の教育大綱に沿って、弥富市らしい子供たちを弥富市で育てていきたいというのが、やはり私たちの願いでありますものですから、そういった面を余りこれは慌てては多分いけないと思うものでございますものですから、引き続き皆様の御意見を聞きながら進めてまいりたいと思います。

本日は以上で議題を終了させていただきますが、そのほか何かございましたら、お願いをいたします。

よろしいでしょうか。

(挙手する者なし)

市長 事務局、よろしいですか。

事務局 はい。

市長 なければ、これで平成30年度の弥富市教育会議を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。